

平成 23 年度上高地冬期利用状況調査結果（概要）

1. はじめに

環境省松本自然環境事務所では、冬季閉鎖期間の上高地において、近年、日帰りトレッキングを目的とする入山者が増加する傾向にあり、自然環境への影響、雪崩等の危険に対する安全確保、ゴミや尿尿処理の問題等が懸念されることから、平成 20 年度から毎年、上高地の冬期利用状況調査を行っている。

2. 方法

（1）現地調査（問題事例等）

冬期利用者が多いと予想される、1/21(土)、1/29(日)、2/4(土)、2/12(日)、2/26(日)の5日間、県道上高地地公園線釜トンネル入口（中ノ湯ゲート）及び上高地内（主に大正池～小梨平間）において現地踏査及び利用者ヒアリングを行い、問題事例等の確認を行った。

なお、調査範囲は天候等の影響により調査日によって異なり、2/12(日)は吹雪のため中の湯ゲートのみであった。

（2）登山者カウンター

12/1～3/31 に県道上高地公園線釜トンネル内に日置電気社製カウンターを設置し、入山・下山方向で1時間ごとに入山者及び工事用車両等をカウントした。なお、平成 23 年度は冬期期間に上高地内で砂防・護岸工事等が行われていたため、平日のカウントの多くは工事用車両等である（一方、土日・祝祭日は基本的に工事が行われないため、ほとんどが入山者であると思われる）。

なお、平成 20 年度に行ったカウンターの精度検証では、入山約 71%、下山約 91%となっており、実際の入山者数より過小評価となる傾向がみられる。また、特に下山において車両を複数カウントすることがわかっていることから、カウント数は直接入山者数をあらかずものではない。

3. 結果

（1）現地調査（問題事例等）

○問題事例として、ゴミの放置、冬期トイレ以外でのし尿痕、湿原や林内への踏み込み、施設敷地内への侵入等が確認された（表、写真）。中でも、2/26(日)に立入禁止ロープを越えて田代湿原への踏み込みが確認された。

○問題事例の数は、調査日数や前日の積雪等の影響が大きいため一概に比較できないが、過去の調査と比較して減少傾向にあった。特に、指定地以外でのキャンプ及び湿原の踏み込みについては立入禁止ロープや啓発看板の効果もあってか、わずかし確認されなかった。

○利用者への聞き取りで、アプローチ道となる県道上高地公園線での雪崩や落石の危険性を知らないまま入山している利用者が多かった。また、軽装や幼児を連れた利用者もみられた。

表 上高地内で確認された問題事例数

	平成 23 年度					平成 21 年度	平成 20 年度
	1/21	1/29	2/4	2/26	合計(4 日間)	合計(5 日間)	合計(11 日間)
ゴミ	6	1	0	1	8	37	18
し尿痕	7	2	5	2	16	14	116
踏み込み(湿原)	0	0	0	10	10	58	154
踏み込み(その他)	8	7	1	多数	16+		
指定地外キャンプ	0	1	0	0	1	4	13
施設敷地内への侵入	1	2	2	4	9	—	—
合計	22	13	8	17+	60+	113	301

(2) 登山者カウンター

○入山カウントが最も多かったのは12/30(金)の621で、次いで、1/8(日)390、2/11(土)380、2/19(日)374、1/7(土)372の順で、年末年始、2月～3月中旬の週末に多くなる傾向がみられた(図1)。

○入下山時間は、工事用車両が少ない土日・祝祭日及び年末年始(12/29～1/3)のデータでみると、入山者は9時～10時に多く、下山は15時～16時に多かった(図2)。また、工事用車両も一部含まれているが、日没後の17時以降の下山者もみられた。

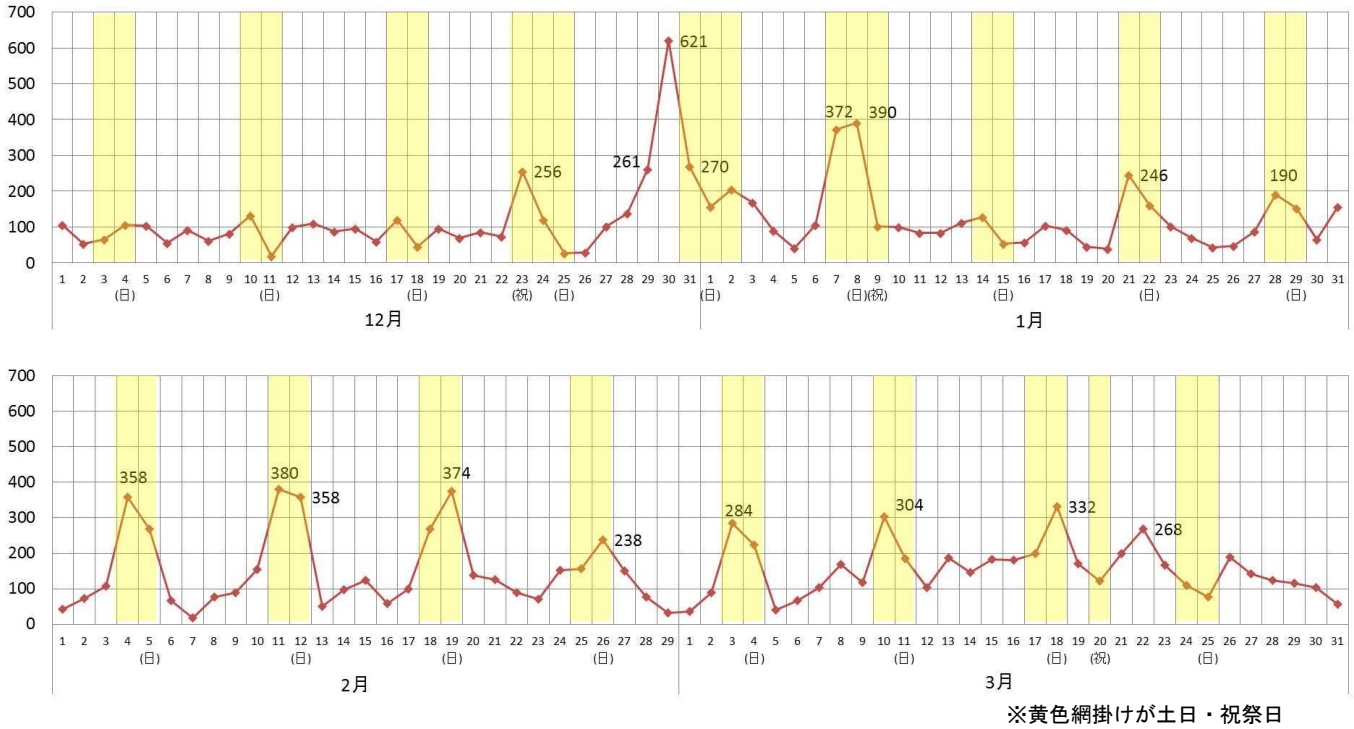


図1 日別カウント数(平成23年12月～平成24年3月)

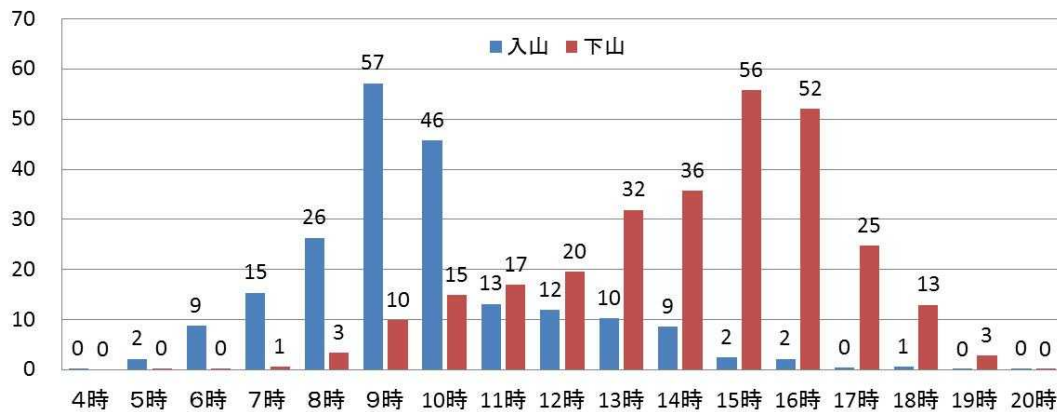


図2 1時間あたりの平均カウント数(土日・祝祭日、年末年始(12/29～1/3)のデータ)



釜トンネル入口での入山の様子



上高地内でのガイドツアーの様子



県道上高地公園線の雪崩跡を越える利用者



田代湿原への踏み込み



指定地外でのキャンプ



野外でのし尿痕



ゴミ (ペットボトル)



施設軒下への踏み込み